



自慢の農産物をPR 産直施設合同販売会

町農産物直売所連絡会主催の合同販売会が8月27日、柳御所駐車場で開催されました。

直売会には町内の産直団体など6団体が参加。産直施設の会員らが丹精込めて作った野菜や自慢の農産物加工品がテントいっぱいには並べられたほか、山王太鼓の演奏やよさこいも披露され、販売会に花を添えました。

今回の販売会は、検討が進められている道の駅施設整備への社会的実験を兼ねて企画されました。



優しい音色で観客を魅了 「久遠の鐘」コンサート

平泉「久遠の鐘」コンサートが9月18日、文化遺産センターなどで開かれました。

アイリッシュ音楽のトリオバンド「オオフジツボ(ギター太田光宏さん、アコーディオン藤野由佳さん、バイオリン壺井彰久さん)」がアイルランドのダンス音楽「カントリーライフ」など7曲を披露。

その後無量光院跡に会場を移し、夕日が沈む金鶏山をバックに日没ライブを行い、幻想的な雰囲気演出。場内は優しく温かみのある音色に包まれ、訪れた観客を魅了しました。

入館者が10万人を突破 平泉文化遺産センター

平泉文化遺産センターの入館者が9月24日、10万人を達成し記念式が行われました。

10万人目となったのは、福島市の会社員・永山哲也さん=写真右=。

同センターの職員が「10万人目の来場者です。おめでとうございます」と拍手で迎え、菅原町長が記念品を贈呈し祝福しました。妻の典子さんと日帰り旅行で当町を訪れた永山さんは「記念品まで頂いてうれしいですね」と思わぬ祝福を喜んでいました。

10万人は平成21年4月14日のオープン以来、894日目での達成。



黄金メロンを販売体験 平泉小総合学習

平泉小学校の5年生9人が9月9日、毛越寺駐車場で「黄金メロン」の販売体験しました。

児童は総合学習の一環として「産業の活性化」をテーマに12班に分かれてさまざまな仕事を体験。このうちメロングループは、5月から町内の農家で栽培方法などを学習してきました。

この日は手作りののぼり旗やメッセージカードを準備し、訪れた観光客に黄金メロンをPR。店頭には並んだ30個のメロンは1時間ほどで完売しました。



5団体が伝統の舞を披露！ ひらいずみ郷土芸能祭

平泉郷土芸能祭「神楽大会」が9月23日、平泉文化遺産センターのふれあいホールで開催されました。

今年の大会には、当町の達谷窟毘沙門神楽や一関市川崎町の布佐神楽保存会、奥州市衣川区の大森神楽保存会など、町内外から5団体が出演。

「南部神楽未来への遺産～幻の演目 魂の舞～」と題して劇舞が披露されました。

会場に訪れた熱心な神楽ファン約230人は、伝統に培われた多彩な舞に、盛大な拍手を送り続けていました。



交流ホールに夢膨らむ 平泉中ワークショップ

新平泉中学校の交流ホールを考えるワークショップの最終回が9月22日、同校で開催されました。

12班に分かれた生徒が前回のワークショップで考えた台の中のうち、機能性や現実性、耐久性に優れていた3案を使ってホールのレイアウト案を発表。模型も使い自分たちの考えたレイアウトを目で確かめました。ステージ発表や集会を開く時のレイアウトなど、個性的で創造性のある案がそれぞれ発表され、改築が進む校舎の完成に夢を膨らませました。